

今回のテーマ： 英国会計基準（FRS102）の改正動向

はじめに

ニュースレター2023年第2号でもお伝えしましたとおり、英国の会計基準設定主体である英国財務報告評議会（FRC）は、英国会計基準（FRS102）の改正に向けたコメント募集を2022年12月に開始し、2023年4月30日まで募集を受け付けました。本年9月にFRCが改正動向についてアナウンスを公表しましたので、本稿では当該動向についてアップデート致します。

収益認識

FRCへ寄せられたコメントは概ねIFRS15号に準拠した、いわゆる5ステップ・アプローチの導入については前向きなものであり、引き続きその方向で検討が進められる見込みとなっていますが、国際会計基準審議会（IASB）におけるIFRS for SMEsの改正動向も考慮した上で最終改正案が提示される見込みとなっています。

リース

こちらも、現時点において、原則としてIFRS16号に準拠して全てリース契約のオンバランスが求められる方向での改正が見込まれる点に変更はありません。ただし、一部の回答者からは、全ての企業に対して完全にIFRS16号への準拠を要請することに対して懸念する声も挙げられており、FRCは今後、少額となる免除対象取引の明確化含め、全ての規模の企業に配慮した対応を取ることとされています。

適用時期

当初想定 of 2025年1月1日開始事業年度以降から1年後ろ倒しとなり、2026年1月1日以降開始事業年度の適用が見込まれています。

おわりに

基準改正動向の詳細は、以下ご参照下さい。

[Periodic review of UK and Ireland accounting standards \(frc.org.uk\)](https://www.frc.org.uk/periodic-review-of-uk-and-ireland-accounting-standards)

以上